

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月11日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320029

研究課題名（和文）

コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析

研究課題名（英文）

Contemporary Dance: its Aesthetics and Institutional Basis

研究代表者

貫 成人（NUKI SHIGETO）

専修大学・文学部・教授

研究者番号：80208272

研究成果の概要（和文）：コンテンポラリーダンスの国内外における上演状況についての調査、各国担当者へのヒアリング、国際研究集会、ダンサーや照明家、音楽家などを交えた研究集会などを通じて、国内外における、コンテンポラリーダンス上演比率、上演数、アジアやアフリカなど各国への浸透度が顕著に上昇し、そのネットワークが整えられていること、さらに、照明や音楽などとの協働もふくめ、独自の美意識が醸成されており、西欧中心主義を基盤とした従来の「藝術」の制度を根底から転覆しつつあることがあきらかになった。

研究成果の概要（英文）：The investigation concerning the circumstances of contemporary dance in and outside Japan shows the increasing number of public performances, the expansion of contemporary dance not only among European countries, but also in the former “third world” countries in South-, Southeastern Asia, Africa including “Sub-Saharan” area or in South-America, as well as the development of networking and the emergence of a new aesthetics which sometimes contradicts the traditional aesthetics oriented to the Eurocentrism.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,500,000円	1,050,000円	4,550,000円
2011年度	2,700,000円	810,000円	3,510,000円
2012年度	2,700,000円	810,000円	3,510,000円
年度			
年度			
総計	8,900,000円	2,670,000円	11,570,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：コンテンポラリーダンス、助成制度、美意識

1. 研究開始当初の背景

(1) コンテンポラリーダンスは1990年代から各所で爆発的に生まれたが、その国内外における上演実態、地域的な浸透のあり方、わが国、ならびに諸外国の助成制度の比較などについての全体的な見通しはえられていなかった。

とりわけ、わが国のコンテンポラリーダンスに関しては、2005年でその頂点をうち、その後は衰退に向かっているという言説が一般的であった。

(2) コンテンポラリーダンスは、特定の技法や美意識に限定されるものではなく、演出などのあり方についての統一性はなく、にもか

かわらず他の舞踊諸ジャンルとは区別しうる。
そのようなコンテンポラリーダンスの美学的特性についても、はっきりとはわかっていなかった。

2. 研究の目的

(1) コンテンポラリーダンスの上演状況やその公演助成制度について、わが国、ならびに諸外国の状況を目に見えるものとする。
(2) コンテンポラリーダンスの、多彩でありながら、他と区別しうる演出上の、また美学的特性を解明し、そのことから導き出される「新たな芸術観」をあきらかにする。

3. 研究の方法

(1) 上演数については、国内外の舞踊専門紙の記事をデータベース化し、通時的傾向、また地域別傾向をあきらかにするとともに、各地の関係者のヒアリングをおこなった。
(2) 美学的特性については、ピナ・バウシュやコンドルズなど、コンテンポラリーダンスの代表的作家の作品について、その演出や身体技法上の特徴をもあわせた、美学的、舞踊学的分析をおこなった。
また、上演者や作家、照明家などの専門家とともに、実験的な共同研究をおこなった。

4. 研究成果

(1) 上演数については、国内外でコンテンポラリーダンスのそれが一貫して増加傾向にあり、わが国において、その傾向は、コンテンポラリーダンス公演が頂点を極めたと思われる 2005 年以降においてもまったくかわっていないこと、そして、その結果、コンテンポラリーダンス公演は、その上演数において、いまや、クラシックバレエやモダンダンスなどをふくめたあらゆる舞踊ジャンルの内でも最大の規模になっていることが明らかとなった。
その背景には、当然、とりわけヨーロッパ各国をはじめとする文化政策の充実がある（雑誌論文⑤副島、⑥丹羽、また、同報告書所収のデータ分析など）。
また、1990 年代まで欧州や北米（カナダケベック州）、日本に限られていたコンテンポラリーダンスの製作、上演が、2000 年前後において爆発的に拡散し、いまや、中国や東南アジア、インド、モンゴルなどをふくむアジア諸国、ブラジルやヴェネズエラなどの南米、さらに、セネガルやブルキナファソ、南アフリカ、マリなど、サブサハラ諸国を含むアフリカにまで浸透していることがわかった（図書⑩貫、など）。
さらにまた、従来の国家予算や大規模劇場頼りの公演や海外ツアーではなく、小規模劇場相互のネットワーク（“Aerowave”）が急速

に充実されていることがあきらかになった。
(2) コンテンポラリーダンスにおいては、通常の舞踊作品に比べてはるかに微細、かつ効果的な演出が見られる。そのうち、たとえば、従来、歴史的研究しかおこなわれず、その美学的分析はなされなかった照明や音楽とダンスの関係について、単なるリズムやメロディだけでなく、あえて情景とは反対の情感を生む音楽を流すことによって得られる効果、本来不可能な音（異様に大きな擦過音）によって、観客の身体感覚にまで影響を及ぼす演出、照明によって、観客とダンサーとの距離を操作する手法、など、さまざまな手法が用いられ、独特の効果を上げていることがわかった（雑誌論文②貫、③石淵、④島津など）。

障害者など、さまざまな異物を巧みに取り入れることによって、当初は予想しえなかった効果をあげる諸装置がコンテンポラリーダンスに見られる。そのため、たしかにその発生の経緯において、また、ほとんどすべての作家に見られる美意識、美学、演出手法において、ヨーロッパ中心主義的であるコンテンポラリーダンスだが、その「周辺部」においては、脱ヨーロッパ中心的な手法や美意識が見られることが明らかになった。一方、コンテンポラリーダンス作家によるフラッシュモブ、上に触れた障害者とともに作成した作品など、従来の「芸術」という枠組みを超える可能性、舞踊を芸術から文化へとシフトする可能性が生まれつつあることも調査や考察から示された（雑誌論文①尼ヶ崎など）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

① 尼ヶ崎 彬「隠喩としての身体：コンテンポラリーダンスと情動」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、4-13.

② 貫 成人「照明と音楽とコンテンポラリーダンス」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、14-23.

③ 石淵聡「インプロヴィゼーションにおけるダンスと音楽の産出システム」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、24-30.

④ 島津京「コンテンポラリーダンスと映像」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、

査読無、2013、31-37.

⑤副島博彦「ドイツの公的なダンス助成とタンツプラン」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、39-41.

⑥丹羽晴美「アーツカウンシル東京の課題と有効性」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、42-43.

⑦荒谷大輔「「経済」とは何か——コンテンポラリーダンスの政治／経済的存立の論理を求めて」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書 DVD、査読無、2013、44-55.

⑧貫 成人、主体の破れ／夢の存在論：夢と哲学、『文学』、査読無、13 巻、2913、17-30.

⑨荒谷大輔、経済学の「エコノミー」——古典派／新古典派経済学における「経済」概念についての哲学的考察、『江戸川大学紀要』、査読無、22 巻、2012、59-69.

⑩島津 京、『『芸術家としての図案家』像—大正・昭和初期における齋藤佳三の活動を中心に』、『現文研』、査読無し、87 巻、2011.

⑪尼ヶ崎 彬、芸術を進化させたバウシュの一撃、ダンスマガジン、査読無、2010、70.

⑫貫 成人、ノイズ：言説の罨／亀裂、文学、査読無、11 巻 6 号 2010、19-32.

〔学会発表〕(計 6 件)

①貫 成人、複雑系における因果と主体、進化経済学会、2013年3月16日、中央大学。

②尼ヶ崎 彬、縁の詩学、美学会、2012年10月7日、京都大学。

③貫 成人、How to see Dance with your body?、国立中山大学哲学研究会、2012年3月12日、国立中山大学(台湾)。

④貫 成人、Unheimlicher Leib: Grund ohne den Grund, XXII. Deutscher Kongress für Philosophie, 2011年9月14日、ミュンヘン大学、ドイツ

⑤荒谷大輔、構造転換の可能性——後期ラカンにおけるディスクール間の移行について、表象文化論学会、2010年7月4日、東京大学駒場。

⑥尼ヶ崎 彬、ダンスの生成、藝術学関連学会連合、2010年6月12日、東京都現代美術館。

〔図書〕(計 17 件)

①荒谷大輔、せりか書房、「経済」の哲学——ナルシスの危機を越えて、2013、254.

②丹羽晴美、(公財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密、2013、186-192.

③貫 成人、不味堂出版、世界のダンス、2013、94-96.

④貫 成人、筑摩書房、哲学で何をするのか：文化と私の「現実」から、2013、289.

⑤丹羽晴美、(公財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、操上和美 時のポートレイト、2012、100-105.

⑥尼ヶ崎 彬、勁草書房、日常性の環境美学、2012、283-303.

⑦副島博彦、平凡社、『バレエとダンスの歴史』、2012、189-212.

⑧尼ヶ崎 彬、勁草書房、日常性の環境美学(西村清和編)、2012、283-303.

⑨貫 成人、平凡社、『バレエとダンスの歴史』、2012、229-253.

⑩尼ヶ崎 彬、放送大学教育振興会、舞台芸術への招待(青山昌文編)、2011、100-113.

⑪尼ヶ崎 彬、大修館書店、近代詩の誕生、2011、297.

⑫貫 成人、Königshausen& Neumann、Asia as “subject”?——Towards a Phenomenological Analysis of Self-alienation, in *Identity and Alterity: Phenomenology and Cultural Traditions*, 2011、79-86.

⑬丹羽晴美、平凡社、ジョゼフ・クーデルカ プラハ侵攻 1968、2011、2-4.

⑭石湊聡、文理閣、舞踊學の現在 芸術・民族・教育からのアプローチ、2011、111-125.

⑮島津京、東京藝術大学美術学部附属写真センター、「複製技術時代のダンス—物語失効

後の身体』『まばゆい、がらんどう = Dazzling, Garandô』、2010.

⑩ 尼ヶ崎 彬、Kyoto University Press, Asian Aesthetics, 2010, 30-40.

⑪ 貫 成人、勁草書房、歴史の哲学：物語を超えて、2010、233.

〔その他〕(計1件)
ホームページ等
<http://www.cdr-net.com/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

貫 成人 (NUKI SHIGETO)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：80208272

(2) 研究分担者

尼ヶ崎 彬 (AMAGASAKI AKIRA)
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授
研究者番号：70143344

副島 博彦 (SOEJIMA HIROHIKO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：30154694

石渕 聡 (ISHIBUCHI SATOSHI)
大東文化大学・文学部・准教授
研究者番号：80308155

丹羽 晴美 (NIWA HARUMI)
学習院女子大学・国際文化交流学部・研究員
研究者番号：30440250

島津 京 (SHIMAZU MISATO)
専修大学・文学部・講師
研究者番号：80401496

荒谷 大輔 (ARAYA DAISUKE)
江戸川大学・社会学部・准教授
研究者番号：40401496

(3) 連携研究者

()

研究者番号：